愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2023年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	社会学		
担当者(Instructors)	山口 佐和子	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

この授業は、社会学の基礎を学ぶものである。社会学的想像力・思考・知識を得ることを目的としている。社会学は、哲学を祖とし、「どのように生きるべきか」を問いとしてかかげる生きた学問である。さまざまな切り口から、社会学の面白さを学ぶ。インタラクティブな授業を学生と教員で作り上げることを目指す。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	テキストを使用し授業を実施する。必要に応じて補足資料を配布する。メディア教材で適切なものがある場合は活用する。アクティブラーニングの手法を導入し、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションにも取り組ませる。リアクションペーパーを活用し、学生の理解度を確認しながら授業を行う。学生の「社会学」への学習意欲を高めるために、テキスト内で学習することに関連した外部講師を招き、授業の中で話してもらうことを検討している。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション	授業の概要、テキスト・参考になる文献、成績評価方法等を説明し、質問も受け付ける。	□
第2回	社会学とは何か	社会学という学問の定義と、社会学のさまざまな分類方法からその全体像をつかむことができるように解説する。	□
第3回	社会学の歴史	19世紀初頭にフランスのコントが自著の中に「社会学」という言葉を登場させてから、その後ヨーロッパやアメリカにおいてどのような学者たちが社会学を今日まで発展させてきたのかを探る。	□
第4回	社会学理論（１）	社会学者の数だけ、社会学理論はあるともいえる。そのなかで、三大社会学者のデュルケム、ジンメル、ヴェーバーに焦点化して、かれらの理論的特徴を説明する。	□
第5回	社会学理論（２）	パーソンズ、ガーフィンケル、サックス、ゴフマン、ギデンズ、ブルデューなどの社会学理論の解説と、その理論を現代社会に生きるわたしたちの問題にあてはめて検討する。いかに生きるべきかのヒントを紹介する。	□
第6回	社会調査と何か	わたしたちの生活は社会調査と切り離せない。ある場所に新しくコンビニができるのも、あるいは閉店するのも、企業のマーケット調査のなせるわざである。社会調査の基礎的知識を解説する。	□
第7回	ジェンダーとセクシュアリティをめぐる社会学	SDG’ｓとしてジェンダー平等が求められている現在、政治参画・国家のあり方・結婚制度などをジェンダー視点で分析する。	□
第8回	若者と子どもをめぐる社会学	いじめの問題、子どもの貧困、青年期の長期化について解説する。	□
第9回	家族をめぐる社会学	家族の絆、夫婦の関係、親子の関係について解説し、あるべき家族の姿を模索する。	□
第10回	地域をめぐる社会学	アーバニズム論の系譜について触れ、都市社会学の発生となったシカゴ学派について概説する。	□
第11回	労働・職場をめぐる社会学	昨今顕著となっている就業形態の多様化について説明し、深刻化する感情労働についても解説する。	□
第12回	メディアと情報化をめぐる社会学	メディアとは何か？という定義から始まり、近代社会の発展と活字メディアとの関係、および現在のスマートフォン時代のメディアの在り方を考える。	□
第13回	階級・階層をめぐる社会学	日本の階級・階層構造の変動および社会的排除と貧困について考える。	□

第14回	グローバル社会とエスニシティをめぐる社会学	難民・移民をめぐる諸問題を概説し、多文化社会の課題と日本の現状を見ていく。	□
第15回	NPO・ボランティアをめぐる社会学 ＜私＞をめぐる社会学	NPOやNGOの働きを紹介する。また社会学的視点にもとづいた自己の探求についても解説する。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

予習：次回の学習予定範囲のテキストの部分を読む。わからない語があれば自分で調べる。テキスト内容に関連した国内外の社会問題について新聞記事等から情報を得て、それに対し自分なりの意見を持っておく。（2時間程度） 復習：授業で学んだことを復習する。理解できない点があれば、ノートにまとめ、次回の授業で教員に質問できるようにしておく。（2時間程度）

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

課題を出した場合は、翌週にまとめてフィードバックし、全体で共有する機会を設ける。提出した課題によって統計分析が可能であれば行い、その結果も共有する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019全学共通DP1	さまざまな社会学理論を理解し、自分の人生の課題解決に応用できる。 現代社会の諸相を、世界、国、地域、家族といった多方面から理解できる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
70%				30%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

授業内容に関するコメントカード・小レポート、授業内での教員からの質問に対する解答、授業内容を理解しようとする積極的姿勢と積極的発言

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	宇都宮京子、西澤晃彦編著『よくわかる社会学［第３版］』ミネルヴァ書房	9784623089710
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		